

平成 27 年 1 月 19 日  
横浜中央信用組合

### 経営諮問会議の設置ならびに第 1 回会議の概要について

当信用組合は、理事会の諮問機関として、外部有識者から構成される「経営諮問会議」を新たに設置いたしました。本会議は、外部有識者より経営全般について助言・提言をいただき、これを経営に反映させることにより、経営の客観性・透明性を確保し、コーポレート・ガバナンスを強化することを目的としております。

過日、「第 1 回経営諮問会議」を開催いたしましたので、その概要につきまして、下記のとおりご報告させていただきます。

なお、第 2 回会議は、平成 26 年度決算が確定後の平成 27 年 7 月頃に開催する予定にしております。

### 記

#### 1、日 時

平成 26 年 12 月 2 日（火） 16：00～18：00

#### 2、場 所

横浜中央信用組合本店 4 階大会議室

#### 3、出席者

（経営諮問委員）＜敬称略＞

長谷川 勉 （日本大学商学部商業学科 教授）

後 宏治 （公認会計士 税理士）

佐藤 明夫 （弁護士）

川上 陸司 （経営コンサルタント）

（横浜中央信用組合）

呉 龍夫 （理事長）

卞 健一 （専務理事）

松山 昌辰 （常務理事）

飯山 高康 （常務理事）

有川 繁雄 （常勤理事）

池野 和己 （常勤理事）

澤崎 秀幸 （常勤監事）

#### 4、呉理事長挨拶要旨

「横浜中央信用組合」は、平成 26 年 3 月 10 日に、神奈川県横浜市に本店を置く「中央商銀信用組合」と、長野県松本市に本店を置く「あすなる信用組合」が合併し、11 県に店舗を置く広域信用組合としてスタート致しました。

出席委員及び全国信用協同組合連合会及び関係各団体に対する感謝の意を述べられた後、合併後の概況、当組合が抱える課題について話があり、本日の会議において今後の組合経営の参考と致したく、様々なご意見を頂戴したいとの挨拶を行いました。

#### 5、当組合からの説明要旨

- ・平成 26 年度仮決算実績
- ・平成 26 年度「経営強化計画」における進捗状況
- ・今後の経営課題（短期的・中期的・長期的な課題）

#### 6、意見交換

出席者から以下のご意見、ご提言を頂きました。

- 主要な信用組合との経営指標について、当組合と他の主要な信用組合との比較があれば教えて欲しい。その上で、現在当組合がどのような位置付けなのかを確認し、戦略等も検討する必要がある。
- 本来の信用組合は地域密着であるが、当組合は広域であるため、各地域に密着した店舗をどの様に作り上げるかが課題である。効率化のため事務処理の統一などを改善する必要がある。
- 長期的には少子高齢化への対応ということで、子ども達が都会へ集まることが予想される。少子高齢化対応も重要である。
- 合併後の財務内容は、大変良くなっているため、このことをお客様に積極的にアピールするべき。また地域との密着という活動もしていることから、店舗別の地域に密着した戦略をアピールするべき。
- メガバンクなどでは金利ではなく手数料収入やコンサルタント料で収益を確保している。企業への提案、コンサルティング等に力を注ぐのも一つの方法ではないか
- 店舗の統廃合については仮に店舗閉鎖を行う場合、他金融機関で取組がある「移動型店舗」を考えるのも良いのではないか。
- 現在、日本に在住する外国人は増加している。これらの団体に働き掛けるのはどうか、需要はあると聞いている。
- 組合の業種別貸出残高を見ると、遊技業、不動産業、宿泊業を三本柱とし、地域性を發揮しており、当面は良好に推移すると思われるが、2020 年の東京オリンピックを頂点に宿泊業等は縮小すると言われている。今から小口分散化にシフトして取り組む必要があると考える。

- 組合 OB や総代などの協力を得た、組合をサポートする人材の組織化が必要（ボランティア）。
- 経営強化計画施策に掲げられている「顧客情報管理システム」の構築には成功例、失敗例がある。決定的な事は渉外の担当者が選別してしまい情報が上がらない事が問題。どんな情報でも上げてくる事が大切であり、従来の預金項目、貸出金項目に情報収集量などを加えた人事考課制度などを構築し、情報収集活動をしっかりと評価する仕組みを作る事が肝要である。

(2) 組合からの回答

本日貴重なご意見を頂きまして誠にありがとうございました。

本日、貴重なご意見・アドバイスを頂き、内部で検討しまして、具体的な戦略、施策に繋げていきたい。今後とも皆様のご支援・ご指導を賜りますよう、よろしくお願ひ致します。本日は、長時間に亘り、有難うございました

以上